

鶺鴒南自治会

震災時の助け合い

震災の翌日、停電の影響で食事を作れない方がいるのでは？という考えが頭をよぎり、自治会長が巡回をしながら、地域の方々に炊き出しの協力をお願いした。準備完了後、炊き出しを行っていることを防災無線で呼びかけた。一部アパートがオール電化になっている影響で、ご飯が炊けず取りに来る方々が予想以上に多く、炊き出しが一時的にでも地域の方々の力になれたと感じた。

震災時、自治会全体で助け合った経験から、日常生活の交流から生まれる、人と人との繋がり的重要性を実感することができた。

地域の親睦交流



夏祭りで披露された「さんさ踊り」

例年、夏祭り、文化祭、運動会、敬老会、春秋一斉清掃活動など、大規模な交流行事を開催している。そのほか、いきいきサロンの運営・支援、カラオケ、卓球などの行事も行われている。

できるだけ全世帯が行事に楽しく参加できるように工夫を凝らし、全行事を継続していくために、時代に沿った形式に変化させて運営している。例えば、敬老会では、日本舞踊、カラオケ、子どもたちによる、おじいちゃん・おばあちゃんへの感謝のお手紙朗読会などが行われており、子どもたちも参加できるような内容となっている。

近年、コロナウイルスの影響で、例年のような

形で交流活動を行うことが困難であるが、これに負けることなくしっかりとした対策を取ることで、継続的に地域交流の場を作り、交流から生まれる楽しいひと時を堪能しつつ、住民同士の絆を深めていきたい。

健康づくり

岩手県は、食事における塩分摂取量が全国的に高順位に位置している。そのため自治会では、「健康は毎日の食事から」をテーマに、減塩を心掛け、日々の生活から健康づくりを促進するように、健康づくりについての講話を開催するなどの活動を行っている。



健康教室で減塩レシピを勉強中

今後の展望

子供には「心のふるさと」と、高齢者には「安心安全な地域」だと思ってもらえるように活動を続けていくことが、将来的な明るさに繋がっていくと考えられるため、それを主軸にして自治会活動を取り組んでいきたい。



左から後藤伸夫氏(副会長)、中村文雄氏(総務部長)
吉田清寿氏(自治会長)、千葉誠喜氏(事務局長)

取材時撮影